

11月29日（火）

参加者 岡本（記）、鳴原

27日の例会が雨で流れ、今日はそのリベンジとして例会で予定していたコースを歩く。計画通り中道を登り、一ノ谷新道を下る。何故か、鳴原さんも参加、東名阪の四日市ICから湯ノ山温泉を目指す。晴れの予想であったが、鈴鹿の山々は季節風の影響か、上の方は一部雲の中だ。紅葉の終わった鈴鹿スカイラインを走る。登山口の駐車場は少し寒々とした感じだ。

9時10分、駐車場を出発。登山口を過ぎれば直ぐに花崗岩質の急な登山道となる。所々踊り場的な場所はあるが、同じ調子の急な登りが続く。途中、所々に奇岩のようなものもあり、退屈しない。五合目過ぎる辺りからは展望も開け、御在所岳や鎌ヶ岳がよく見えるが、天気が今ひとつで、あまり綺麗に見えないの残念である。



(中道登山口)



(五合目)



(五～八合目の登山道)

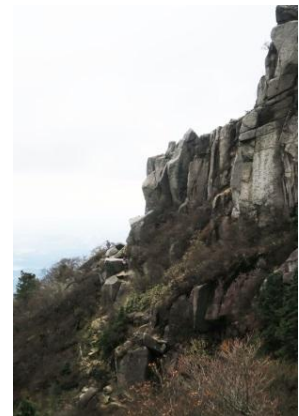
五合目から八合目を過ぎる辺りが一番の岩場となるが、足下さえ注意すればそれ程危険な箇所はない。最後の急な坂を登り切るとロープウェイ乗り場に続く遊歩道に入る。そこからスキー場の方へ歩くと15分程で三角点のある山頂に着く。



(五合目から御在所岳)



(五合目から鎌ヶ岳)



(八合目を過ぎた下り)

上に着く頃から風も少し強くなり、空も一層どす黒くなり、寒さも感じるようになる。写真が今一つ綺麗に撮れない。取り敢えず証拠写真だけ撮り、山頂のあずまやで昼食を取ることにした。他にも5～6人居たので、



(山頂)



(一ノ谷新道)

適当な話をしながら30分近程休む。下山路は一ノ谷新道を取る。この道も無駄の無い急勾配の道で、岩と木の根の絡まった急な坂が登山口辺りまで延々と続く。景色もあまり見えないのでひたすら歩くだけだ。誰かが途中の奇岩によじ登り暇つぶしをしたが、下山したところで13時過ぎだ。帰路は、武平峠を越え、名阪国道の上柘植IC経由で、のんびりと帰る。